

台風の落とし物

今年は、台風 6 号、12 号、15 号と 3 つの台風が日本に上陸し、全国的に大きな被害を残しました。静岡県内の漁業においても、例えば、台風 6 号では、由比漁港や地頭方漁港、御前崎港などで大量の流木等が漂着する被害を、伊東市川奈の定置網では台風に伴う急潮で網固定用錨が移動する被害を受けました。台風 12 号では吉田でシラス漁船などのプロペラが流木で損傷する被害を、また台風 15 号では、風や波浪によって伊豆漁協等の漁業関連施設が破損する被害に加えて、戸田漁港や浜名漁港などでは漁船が水没する被害を受けました。

台風による漁業関係の被害は、風や波浪によるものに加え、河川が氾濫し大量の流木等が流出することによる被害が目立ちます。記憶に新しいところでは、昨年 9 月の台風 9 号による集中豪雨で流れ出た流木等によって、川奈漁港が埋め尽くされた事例*があります。このときの流木被害は漁港だけに留まらず、定置網の破損、稲取キンメの立縄漁業の休漁、伊豆全域でイセエビ刺網漁業の休漁など広く被害がもたらされました。

さて、今年の 3 つの台風では、大量の流木こそありませんでしたが、波浪によって伊豆分場の前浜（砥川浦）に大量の海藻が打ち上げられ堆積しました。

写真 1 は板戸漁港に打ち寄せる波浪です。波が防波堤に当たり、波しぶきが高く舞い上がる様子がわかります。写真 2 は、今年 7 月、台風 6 号通過後の伊豆分場前浜に堆積した大量のカジメ等です。台風 12 号、15 号通過後も同じ状況でした。



写真 1 打ち寄せる波浪(台風 12 号)

伊豆分場では、この堆積した海藻の体積と単位体積当りの重量を測定して堆積重量を推定しました。測定の様子を写真 3 に示しています。堆積した海藻に乗って測定を行なう人の大きさとの対比から堆積量の多さがお分かりでしょうか。台風 6 号後の打ち上げ海藻は延長 100m に亘って堆積し、その厚さは深いところでは 1.2m にも及びました。堆積量測定の結果、台風 6 号後の堆積重量は約 173 トン、台風 12 号後は約 141 トン、台風 15 号後は約 142 トンと推定できました。

台風 6 号後の打ち上げ海藻は、伊豆分場の前浜だけでなく、南伊豆町の弓ヶ

浜でもありました（写真 4）。白砂の美しい南伊豆町弓ヶ浜海岸に、海水浴シーズンを前にしてカジメ等が大量に打ち上げられたため、埋め立て処理が行なわれました。伊豆新聞によれば、打ち上げられた海藻は推定 100 トンにのぼったことが記載されていました。



写真 2 台風 6 号後の打ち上げ海藻



写真 3 打ち上げ海藻の堆積量測定

台風が残していったカジメ等は、厄介者として処理されましたが、かつては、テングサが磯や浜に打ち上げられた場合、寄草として漁獲の対象になっていました。現在でも北海道のコンブ漁業では、時化模様ときには、拾いコンブ漁業として海岸に打ち上がるコンブを拾い集めて漁獲物として大切に扱っています。



写真 4 弓ヶ浜に打ち上がった海藻

平成 23 年の 3 つの台風で伊豆分場の前浜だけで 456 トンものカジメ等が打ち上げられました。伊豆半島の他の浜や磯に打ち上がったものを考えるとその量は大変なものになると考えられます。

毎年のように繰り返される台風被害を軽減する努力がなされるとともに、再生可能エネルギーへの転換が求められている現在、大量に打ち上がった海藻をバイオマスエネルギーとして利用を考えることも必要なのではないのでしょうか？

（海野幸雄）